

四國
靈場
熊野山
石手寺



伊予の秋 石手の寺の香盤に 海の色して立つけむりかな 与謝野晶子
御仏の瞳は慈悲に輝きて悩みと罪の子らに微笑む 四一世方丈俊章

元気の出る左回り

と先々代は言われる。先代俊行方丈には「ひとの痛みを知れ」とたびたび叱られた。四三世代。

名にしおふ右手の寺の玉の石くち
づくづれぬしるしなるん 尊學
石手寺や何堂彼堂弥勒堂
石手寺へ廻れば春の日暮れたり
南無大師石手の寺よ稻の花
二の門は二丁奥なり稻の花

見あぐれば塔の高さよ秋の空

冬木立寺に蛇骨を伝へけり
草井や寺の前なるへんろ宮
漱石

お遍路にとりかこまれて道おしゆ
杖上げて吼ゆる犬_{アシ}遍路哉

鎌倉の昔を今に寺の鐘 前田伍健

ムの運営です

六
三

本股
(弘去大而乍象)
六

水香共、蔓燒頑

五
五
唱
の
著
者

卷之三

アラビア語

幸福祈願をして、自他とも

卷之三

卷之三

卷之三

清江

10

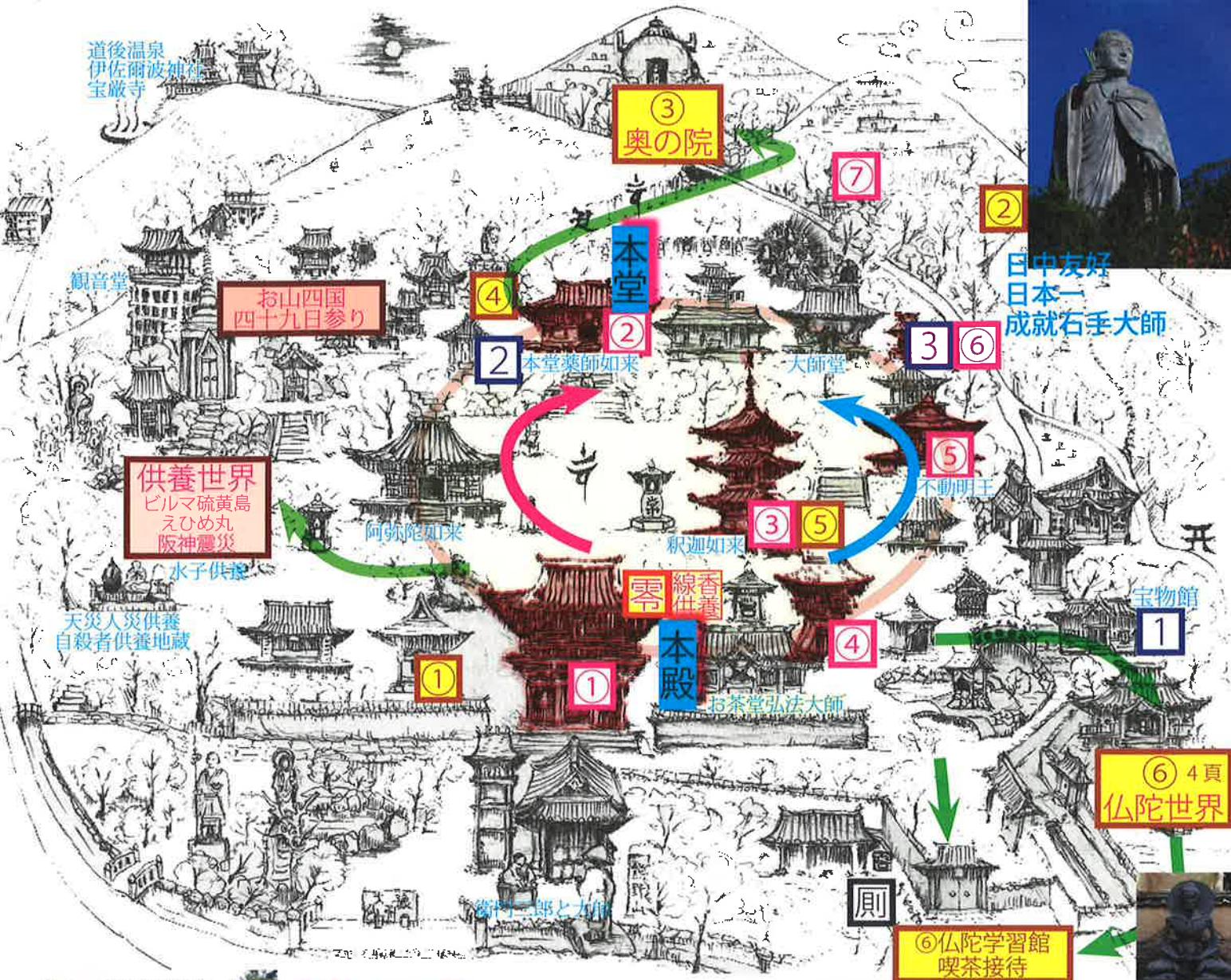
懺悔 奮起

不動明王

清淨力

学業合格

仏の靈場です



国宝 仁王門

今から六七〇年前に建てられたもので雄功豪抜な鎌倉期の特徴を發揮しており楼門の蛙股は運慶の作と云われその繊巧秀美なることは当代の傑作といいまた左右の仁王像(県指定文化財)は湛慶の作といわれています。

国重要文化財 本堂

この本堂は、国宝の二王門とほぼ同じ時期の建築とされているが、嘉永6年(1853年)の同寺を描いた古絵図には阿弥陀堂の呼び名が書き入れられ、現在の阿弥陀堂を本堂としている。各所の手法は力強く、鎌倉時代末期の建築の特徴をよく残している。

国重要文化財 三重塔

高さ24.1m。全体の容姿はよく均整が取れ、鎌倉時代の特色を伝える建物である。なぜか一階部分のみ白壁塗りがある。境内の中心に位置し、五つの仏から成る曼荼羅世界を構成する。

国重要文化財 鐘楼

この鐘楼は元弘三年に建てられたもので四方に腰榜がついており全国でも珍しいものです。

国重要文化財 銅鐘

国重要文化財 護摩堂

天竺と和洋折衷の建造物の多い中でこの堂宇のみが純粋な和様建築である点に特色があり他の建造物と異なっている点はたるきがなく舟ひじきどめとなっていることです。

国重要文化財 鬼子母神

この堂は詞梨帝母天(鬼子母神)をお祀りしており子宝に恵まれない方々のお詣りがあとをたちません。この堂宇中央蛙股は非常に繊細な作りで美しくこの様に小さな建造物に拘わらずひじきのところや釘かくしなど特徴あるものとなっています。

国重要文化財 五輪塔

宝物館衛門三郎玉の石

県重要文化財

護摩堂不動明王二童子・菩薩面二童子面・獅子頭・石剣・掛け仏

以上県市重要文化財
弘法大師真筆・山頭火直筆句

2 元気再生石と 罪障消滅・再生くぐり輪

3 子宝石と 智慧誕生くぐり輪

パワースポット

仕合わせの鐘

奪い合いでなく与え合う仕合わせの鐘
日中友好戦争反省平和を祈念し
中国のデザインで建立・日本最大の弘法大師

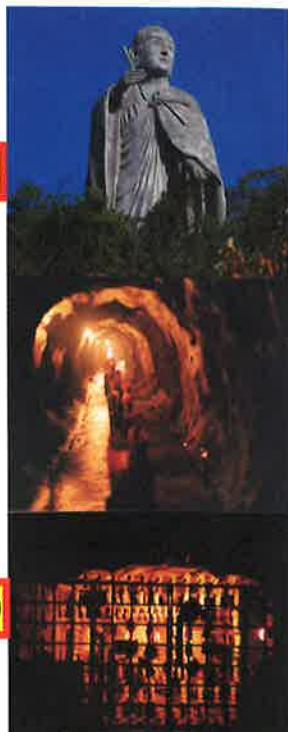
日中友好再生成就大師合格祈願

奥の院しょうじょう寺五百羅漢

一木彫りの羅漢像と修行します。永代供養塔

弘法大師修行場と四国八十八靈場

密教胎蔵界と金剛界 マントラ洞窟



四国八十八靈場お砂なで

石手寺は遍路創始の衛門三郎再生の寺。住職自ら靈場参りを重ね砂を安置。撫でて心身を回復し、自他ともに救う発心をします

印度グランプリ作家三人の競作 ブッダ伝記石仏4頁

再生、玉の石 四国遍路開創 衛門三郎縁起

数里南の荏原の里に、衛門三郎という長者がいた。ある日門前に一人の薄汚れた僧が行き場もなく途方に暮れて「どこでもよいから一晩泊めてくれませんか」と懇願した。三郎は開墾に夢中で聞こえない。僧がしつこく頼むので彼は「わしは忙しい、仕事の邪魔だ、汚いものめ、働かぬからだ」と、突き飛ばし、僧が持っていた托鉢の鉢は落ちて八つに割れた。僧は実は弘法大師であったが落胆して去り、その後三郎の八人の男子が悉く死ぬ。衛門三郎は、最愛の子をなくし何も手につかなくなる。働き者であった彼を村人はいつしか、「強欲非道の怠け者」と呼ぶようになった。家も荒れ果て、ついに彼は家をすて身を忘れてあの僧に会いたいと出奔する。四国をまわること二十一回、いつも三郎の姿はあの薄汚い僧に似ていた。彼はある所ではことごとく宿を断られ、ときにやさしく迎えられた。「ああ、人の心を知りぬれば、さはあらじを」。遂に阿波の国焼山寺の麓で病に倒れ息も絶え絶えになる。その時突然弘法大師が枕元に現れ「よくぞ修行し改心した。望みが有ればかなえよう」と言うと、三郎は「生まれ変わるものならば、領主に生まれ人を助けたい。今度こそはお泊めしたい」と言うと、彼の手に一寸八分の石に衛門三郎と彫み授けた。衛門三郎は安心して息を引き取った。それより幾許の年月をへてかこの地の豪族河野息利に男子が生まれたが右の手は握ったままで開かないでの、この寺で祈願したところ手の中から「衛門三郎」と書かれた石がでてきた。そこでこの石を当山に納め、寺号を安養寺から石手寺に改めた。現在「衛門三郎玉の石」は宝物館に安置してある。(仏教入門1参照)



元気石 再生石

石を一つ持って帰り、一年したら七添えて七転び八起きの石として返す。衛門三郎伝説にちなんで、元気と改心、復活を得る。

鬼子母神 子宝石

鬼子母神の境内の石を持ち帰ると子宝に恵まれると伝わる。昔、長寿の為に他人の子をさらっては食っていた鬼が、ブッダに自分の子を隠され、鬼は子を慕う母親の思いを痛感する。自分の子がいなくなつたことで母心を得て改心し、子宝の神様に生まれ変わった話から、この石を持ち帰ると子が授かると伝えられる。授かると二つ石を添えて返す。持ち帰った石には子の名前を書く。御礼参り、着帯安産祈願は有名。初参り七五三をしたい。

石手寺由来
法隆寺文様の瓦が出土し法隆寺系統の莊園に立脚して六七〇年頃に最初の堂宇が建立された。寺伝には聖武天皇の神龜五年に伊予の大守越智玉純が朝より室町期に至る間が最も盛期で寺域東西数十丁七堂伽藍六十六坊を有したが、永禄九年長曾我部氏の兵火のために十二間四面重層の金堂を焼失した。現在、「鎌倉の昔を今に寺の鐘」と詠まれた「伊予の秋石手の寺の香盤に海の色して立つ煙かな」(写謝野晶子)と詠まれ四国大師信仰の中心である。お茶道の大師尊像は弘法大師の御作であり、大師に悩みを訴える善男善女が後を絶えない。

是非仏陀の庭で教え
を考えてください

共感するものは永遠を得る
保身に生きるは地獄を得る

与え合う喜び 離欲・一味平等

人の痛みを知り、
喜ばれる喜びに生き
与え合う世界
あらゆる所に
あらゆる人と楽しく
この世にもあの世にも不死を得る



⑥ 生類の共生

あらゆる所にあらゆる人と
親和して一切所平等平安

⑤ 我が抜苦

私は自分に刺さる見がたい矢を発見した。この矢に突き飛ばされて、私たちは右往左往しぶつかり合う。この矢を抜けばぶつかり合い奪い合うことはない。

④ 人類への共感

和解したいと思ひながらぶつかり合う苦

平和を愛する心をもつものは私だけではない。みな同様に救われたい、救いたいと思っている。ここに救済の糸口がある。

③ 人類の苦悩

人々もまたぶつかり合う

見よ、人々はぶつかり合い奪い合う。あたかも少ない水に居る魚たちが何も知らずにぶつかり合うように。私はこの苦悩を見過ごすことができなくなってしまった。慈悲の心が出たのだ。

② 敵への共感

みんな痛みがある

どこを探しても自分より愛しいものを見出さなかつた。そのように誰にとっても自分が愛しい。人間は皆一緒である。同じように痛み、同じように悲しむ。

① 生きる苦悩

ぶつかり合い

仏陀は言う

「私は敵を殺すたびにして恐れた。相手の痛みを感じたからである」ベトナム戦争海兵隊のアレンさんは言う「私は敵を殺すたびに吐いた。人間を殺すことは出来ない」敵を殺すために相手は人間でないと思い込む練習をしたことを恥じる。

我欲が妄想して
敵対を生み出す

ぶつかり合い奪い合う 敵対地獄？軍備拡張集団的自衛権？

人は永遠に他者を食むか

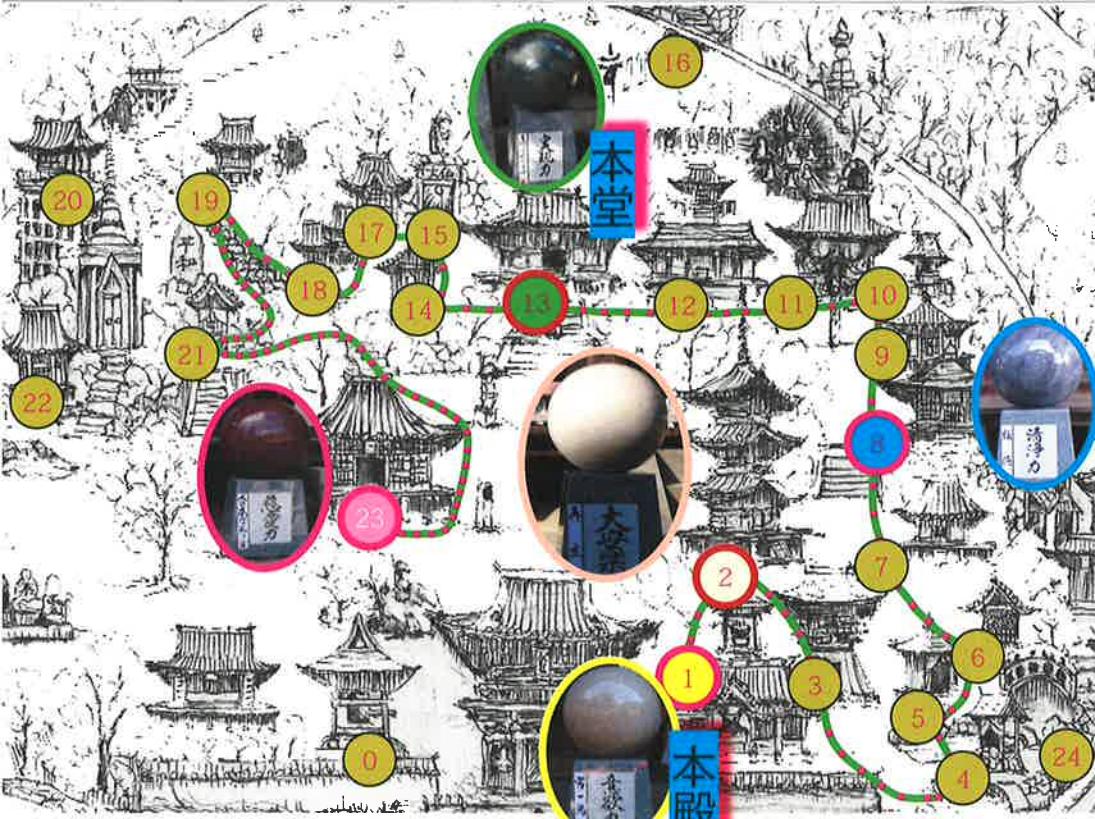
なぜ人類は、富める者と欠乏する者に分かれ

人と人、国と国が、仲良くできないのか

飢餓と人身売買・敵対戦争のなくなる日は来るのか



曼荼羅五仏パワー玉の石



- | | |
|-----------------|----------|
| ①本殿 | 弘法大師 |
| ②三重塔 | 釈迦如來 |
| ③鐘楼 | |
| ④弁財天 | 学問学芸財宝成就 |
| ⑤穴地藏 | 穴病平癒 |
| ⑥水天 | |
| ⑦弥勒堂 | 友情人間関係成就 |
| ⑧護摩堂 | 不動明王 |
| ⑨一切經堂 | 学問成就 |
| ⑩鬼子母神 | 子宝安産 |
| ⑪大師堂 | 巡礼祈願所 |
| ⑫十二社權現 | 財宝 |
| ⑬本堂 | 薬師如來 |
| ⑭章駄天 | 再生元氣石 |
| ⑮大師修行洞窟 | 88 御砂踏 |
| ⑯五百羅漢 | |
| ⑰毘沙門堂 | 財宝仕事成就 |
| ⑱帝釈天 | 不敗祈願所 |
| ⑲隨求堂 | 強い所願成就 |
| ⑳觀音堂 | 苦難除去 |
| 21 硫黃島ビルマ不殺生平和碑 | |
| 22 子育地藏 | |
| 23 阿彌陀堂 | |
| 24 佛陀學習館 | |

お参りの仕方

五仏加持といい、仏様と私と人々の三つの力が合わさって不思議な力を生み出すということをいいます。仏我衆生

の三心の妙力です。各自のお堂で仏様を礼拝し、心を清め、願いを唱えて、そして玉の石を撫でてその加持力を得ます。

まず、本殿お茶堂の弘法大師さま御作の弘法大師に礼拝。

手を洗い口を漱ぎ、門で邪心と苦難を降ろし、仕合せの金を撞いて、仏の清らかな心を起こす。

① 金を打ち心を落ち着ける。
② 香と灯明。できれば線香を二把点け、一つは本殿もう一つはそれを持って三重塔から巡る。

③ 金を打ち心を落ち着ける。
④ もう一打で心を仏に向けます。お茶堂では弘法大師に意欲の祈願する。自分の中に、意欲が湧いてくるように祈願する。

⑤ 清らかな心で自分の所願成就の祈願。亡き人の供養や、病気平癒や、合格や祈願成就の祈願する。

⑥ 玉の石を撫でて仏の力を頂きます。⑦併せて諸人の祈願成就と幸福を祈ります。そして玉の石を撫でて人々の力を得ます。

⑧ 最後に、弘法大師さま自分が意欲力と人々の力とが合わさせて成就するように祈願する。順次②③④と祈願して心を落ち着け、力を得ます。



節分厄よけ招福祭

年の始めを皆一緒に気持で祈願し、一年の所願成就と安穏を祈ります。県内外から十万人の善男善女が詰めかけ、境内は埋めつくされ、幸福祈願一色になります。

福德授与灌頂祭 10月20日より

最も重要な行事。本堂内に曼荼羅壇をつくり、お一人ずつ真言を唱え清い水を注ぎ、五鈷金剛を手にして、心の平等平安と悟りの儀式をします。特製五色五仏智慧念珠を授与。

不殺生平和万灯会

夏は戦死者、災害死者、自殺された方々を供養し、人の痛みを知り、安穏を祈願します。冬は新年を迎るために、過去の灯を持って巡礼して新たな平和を祈ります。灯明に祈願と名前を書き、灯して自分の灯と、他人の灯が照らしあい、互光となって、喜ばれる喜びを増益して幸福をつくります。



自他を照らす 一味平等



各種受け付け
開運厄よけ祈願
学業合格・病気平癒 所願成就
子宝・着帯安産祈願
七五三初参り 結婚式 四国参り
永代供養・水子供養

かけこみ寺
何でも悩み相談☎
089-977-8155

金剛講
年会費 1000円